

町内遺跡発掘調査報告書 VI

令和2年3月

ミネルバ開発株式会社
紫波町教育委員会

例 言

1 本書は、平成30年度実施した才土地遺跡 第2次調査、善念寺山遺跡 第1次調査及び、町内遺跡の埋蔵文化財有無確認（試掘調査）についての記録保存を目的とした緊急発掘調査に関する報告書である。

2 調査概要

・才土地遺跡 第2次調査

調査事由 宅地造成工事に伴う緊急発掘調査

調査期間 平成30年4月23日～平成30年5月2日 調査面積 166.5㎡

・善念寺山遺跡 第1次調査

調査事由 宅地造成工事に伴う緊急発掘調査

調査期間 平成30年10月10日～平成30年10月30日 調査面積 1222.4㎡

・町内遺跡の埋蔵文化財有無確認調査（試掘調査）

文化財保護法第93条・10遺跡・12箇所 文化財保護法第94条・3遺跡・3箇所

3 調査主体 紫波町教育委員会

教育長 佐美 淳

調査組織 紫波町教育委員会事務局 教育部長 石川 和広

生涯学習課 課長 古内 広貴（平成30年度）

学習推進室長 谷地 和也

主任 岩館 岳

主事 上方 雄理

主任文化財専門員 鈴木 賢治

文化財専門調査員 中島 康佑（平成30年度）

※調査担当は鈴木・中島が担当し、本書の執筆及び編集は、鈴木 賢治が行った。

4 本調査は、ミネルバ開発株式会社と紫波町教育委員会との間で締結された協定書に基づき、紫波町教育委員会が野外調査・室内整理及び報告書編集を実施した。本調査に係る費用は事業主体であるミネルバ開発株式会社に支出していただいた。

5 遺構の平面実測図・座標測量は株式会社グランプラスに委託した。

6 調査区全景（ドローンによる空撮）は、社陵高速印刷株式会社に委託した。

7 土層図は、堆積の仕方を重視し線の太さを使い分けた。土層層相の色相観察は、小山・竹原著「新版標準土色帖」日本色研事業株式会社を使用した。

8 本書に記載した地形図は、国土地理院発行の5万分の1日誌を使用した。

9 各遺構名と遺構記号は次の通り。溝跡—SD、畝状遺構—SX、柱穴—P

10 座標数値	才土地遺跡 第2次調査	基-1	X=50631.566	Y=28563.633
		基-2	X=50687.988	Y=28553.005
	善念寺山遺跡 第1次調査	基-1	X=48501.048	Y=28091.687
		基-2	X=48427.615	Y=28042.585

11 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、紫波町教育委員会において保管している。

12 現場作業及び室内整理作業は、次の方々に参加・協力して頂いた。（五十音順 敬称略）

伊藤 敦子、稲垣 淳子、小澤 功子、川原 佳奈子、小松 愛子、高橋 洗介、松岡 好一、山本 加奈子、吉田 千鶴子

目 次

例 言
目 次
本 目 次
挿図目次

表 目 次
写真目次
抄 録

本 目 次

I 才土地遺跡 第2次調査	1	II 善念寺山遺跡 第1次調査	6
1 遺跡の環境	1	1 遺跡の環境	6
(1) 位置	1	(1) 位置	6
(2) 地形と地質	1	(2) 地形と地質	6
(3) 周辺の遺跡	2	(3) 周辺の遺跡	7
2 調査の概要	3	2 調査の概要	8
(1) 調査に至る経過	3	(1) 調査に至る経過	8
(2) 第2次調査の概要	3	(2) 第1次調査の概要	8
3 調査の成果	4	3 調査の成果	9
(1) 検出遺構	4	(1) 検出遺構	9
(2) 出土遺物	5	(2) 出土遺物	18
4 まとめ	5	4 まとめ	19
III 町内遺跡の埋蔵文化財有無確認調査（平成30年度試掘調査）	20		
文化財保護法第93条 試掘調査位置図・トレンチ平面図①～⑥	21～26		
文化財保護法第94条 試掘調査位置図・トレンチ平面図①～②	27～28		

挿 図 目 次

・才土地遺跡 第2次調査

第1図 才土地遺跡 位置図	1
第2図 周辺の主な遺跡 位置図	2
第3図 第2次調査 遺構配置図	3
第4図 SD-03 溝跡 平面図・断面図	4
第5図 出土遺物	5

・善念寺山遺跡 第1次調査	
第1図 善念寺山遺跡 位置図	6
第2図 周辺の主な遺跡 位置図	7
第3図 第1次調査 遺構配置図	8
第4図 SD-01～SD-03 溝跡 平面図・断面図	10
第5図 SX-01・SX-02 畝状遺構 平面図・断面図	13
第6図 SX-03・SX-04 畝状遺構 平面図・断面図	14
第7図 SX-05・SX-06 畝状遺構 平面図・断面図	15
第8図 P1～P20 柱穴 平面図・断面図	17
第9図 出土遺物	18
・町内遺跡の埋蔵文化財有無確認調査（平成30年度試掘調査）	
第1図 試掘調査 遺跡位置図	20

表 目 次

・才土地遺跡 第2次調査	
表1 周辺の主な遺跡一覧表	2
表2 SD-03 溝跡 埋土注記一覧表	4
表3 出土遺物一覧表	5
・善念寺山遺跡 第1次調査	
表1 周辺の主な遺跡一覧表	7
表2 SD-01～SD-03 溝跡・SX-01～SX-06 畝状遺構 埋土注記一覧表	16
表3 P1～P20 柱穴の深さ一覧表	17
表4 出土遺物一覧表	18

写真目次

第1図版	才土地遺跡 第2次調査 調査区全景・SD-03 溝跡 完掘
第2図版	才土地遺跡 第2次調査 SD-03 溝跡 断面・作業風景
第3図版	善念寺山遺跡 第1次調査 調査区全景（空撮）
第4図版	善念寺山遺跡 第1次調査 SD-01～SD-03 溝跡 完掘・断面
第5図版	善念寺山遺跡 第1次調査 SX-01～SX-05 畝状遺構 完掘・断面
第6図版	善念寺山遺跡 第1次調査 SX-06 畝状遺構・P1・P2 柱穴 完掘・断面 出土遺物状況
第7図版	才土地遺跡 第2次調査（1～3）・善念寺山遺跡 第1次調査（1～6）出土遺物
第8図版	文化財保護法第93条 試掘調査状況①
第9図版	文化財保護法第93条 試掘調査状況②
第10図版	文化財保護法第94条 試掘調査状況
第11図版	文化財保護法第93条 試掘調査 出土遺物
第12図版	文化財保護法第93条・第94条 試掘調査 出土遺物

I 才土地遺跡 第2次調査

1 遺跡の環境

(1) 位置

本遺跡は、JR東北本線日詰駅から北東に約0.8km、岩手県紫波郡紫波町桜町字才土地内に位置する。遺跡範囲は南北に約98m、東西に約100mと推測される。

(2) 地形と地質

本遺跡の東側約0.85kmには、紫波町の中央を縦断するように北上川が南流する。平地は、西側一帯に奥羽山脈から流れ出て北上川に注ぐ滝名川・大坪川・五内川等の中小河川群によって、広く扇状地や氾濫低地が形成されている。北上川中流域西側の扇状地性段丘は、西根段丘・村崎野段丘・金ヶ崎段丘と大きく三分類されるが、紫波町内に相当するものとして、石鳥谷段丘・二枚橋段丘・都南段丘と命名された段丘群が知られている。



第1図 才土地遺跡位置図

(3) 周辺の遺跡

本遺跡の南側に大日堂遺跡、北日詰東ノ坊Ⅱ遺跡、西側に桜町田頭遺跡・北日詰下敷遺跡などが所在する。また、紫波町内には、県指定史跡である川原毛瓦窯跡、舟久保洞窟、町指定史跡である陣ヶ岡陣営跡、樋爪館跡、高水寺城跡など貴重な遺跡が多く存在する。

番号	遺跡名	所在地	種別・時代	遺物
1	平沢松田Ⅲ	桜町字桜	散布地・古代	土師器・須恵器
2	田頭	桜町字田頭	散布地・古代	土師器
3	星山館	星山字間野村	城館跡・中世	—
4	桜町田頭	桜町字高木	散布地・古代	土師器・須恵器
5	北日詰下敷	北日詰字下敷	散布地・古代	土師器
6	大日堂	北日詰字大日堂、字白旗、字城内、字東ノ坊	集落跡・城館跡	—
7	北日詰城内Ⅱ	北日詰字城内	集落跡・縄文	縄文土器
8	北日詰東ノ坊Ⅱ	北日詰字東ノ坊、下東ノ坊	散布地・古代	土師器
9	北条館	北日詰字城内	城館跡・中世	土師器
10	北日詰下東ノ坊	北日詰字下東ノ坊、字城内	散布地・古代	土師器・白磁
11	北日詰城内Ⅰ	北日詰字城内	散布地・古代	土師器・須恵器
12	北日詰東ノ坊Ⅳ	北日詰字東ノ坊	散布地・古代	土師器・須恵器・陶磁器
13	北日詰東ノ坊Ⅰ	北日詰字東ノ坊	散布地・古代・中世	土師器・須恵器・かわらけ
14	北日詰東ノ坊Ⅲ	北日詰字東ノ坊	散布地・古代・中世	かわらけ
15	比爪館	南日詰字箱清水	城館跡・古代・中世	土師器・須恵器・かわらけ・陶磁器
16	北日詰八卦	北日詰字八卦	散布地・古代	土師器・須恵器

表1 周辺の主な遺跡一覧表



第2図 周辺の主な遺跡位置図

2 調査の概要

(1) 調査に至る経過

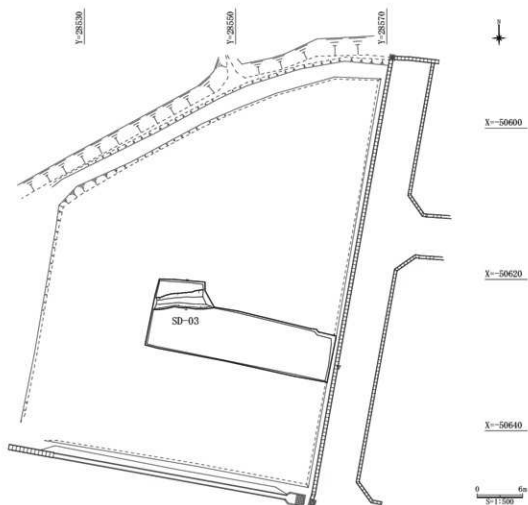
ミネルバ開発株式会社代表取締役 山内季光 氏から平成 30 年 3 月 4 日付けで紫波町桜町字才土地地内の宅地造成に関わる届け出を受け、平成 30 年 3 月 22 日に試掘調査を実施したところ、遺構及び遺物が発見された。その後、平成 30 年 4 月 9 日付けで岩手県教育委員会から工事着手前の遺跡発掘調査の勧告があった。以上のことから協議を重ね、平成 30 年 4 月 23 日付けでミネルバ開発株式会社代表取締役 山内季光 氏と費用負担契約を締結し、平成 30 年 4 月 23 日から平成 30 年 5 月 2 日にかけて記録保存（緊急発掘調査）に着手した。

(2) 第 2 次調査の概要

位 置 国道 4 号から西に約 220m、盛岡南ショッピングセンター NACS から南に約 600m に位置し、南北 9.4m・東西 24.6m の範囲を調査した。

検出遺構 SD-03 溝跡 1 条

出土遺物 縄文土器、かわらけ、土師器坏、古銭、その他



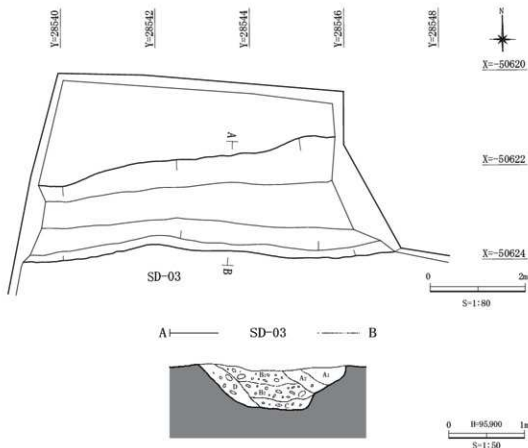
第 3 図 第 2 次調査 遺構配置図

3 調査の成果

(1) 検出遺構

SD-03 溝跡 (第4図)

位置 調査区西側 平面形 東西に直線状にのび、東側の上端は広く、西側の上端は狭まる
 重複関係 なし 掘込面 削平 検出面 黄褐色シルト層
 壁の状況 外傾して立ち上がる。 底の状況 ほぼ平坦
 規模 全長7.92m以上、上端1.72m～2.64m、下端0.61m～1.13m、深さ0.69mをはかる。
 埋土 A層～D層に大別し、A層・B層は2層に細分する。A層は褐灰色土、B層はにぶい黄褐色土、C層は赤褐色土、D層は黄褐色土を主体とする。B層は小レキを多く含む。
 出土遺物 なし



第4図 SD-03溝跡 平面図・断面図 (1:80 1:50)

SD-03

A1	褐灰色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
A2	褐灰色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B1	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは硬。小レキ多く含む。
B2	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは硬。小レキ多く含む。
C	赤褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは硬。砂質。
D	黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

表2 SD-03溝跡 埋土注記一覧表

(2) 出土遺物 (第5図)

今回の調査では、縄文土器の深鉢、平安時代の土師器杯、中世(12世紀)のかわらけ、古銭、その他を小ビニール袋で1つ出土した。その内、実測可能な遺物3点を図化し掲載した。

- 1) かわらけ 検出面から1点。1はロクロ成形で、マメツが著しい。口径6.4cm、底径3.4cmをはかる。
- 2) 縄文土器 SD-03溝跡から1点。2は深鉢で、マメツが著しい。厚さ0.7cmをはかる。
- 3) 古銭 検出面から1点。3は腐食が著しく、細部まで鮮明に観察はできなかったが、新寛永Ⅲ期の寛永通寶と思われる。径は2.4cmをはかる。

かわらけ・縄文土器・古銭

番号	器種	遺構名	出土位置	成形	部位	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	残存率(%)	備考
1	かわらけ	—	検出面	ロクロ	口~底部	6.4	3.4	1.3	15	回転糸切、マメツ
2	縄文土器	SD-03	A層	—	体部	—	—	0.7	—	深鉢、マメツ
番号	器種	遺構名	出土位置	銭名	直径(cm)	厚さ(cm)	残存率(%)	始鑄年代	備考	
3	古銭	—	検出面	寛永通寶	2.4	0.2	100	1668	新寛永 Ⅲ期	

表3 出土遺物一覧表



第5図 出土遺物(1:2)

4 まとめ

才土地遺跡 第2次調査では、溝跡1条を検出した。遺物は縄文土器、土師器杯、かわらけ、古銭などが出土した。

・溝跡について

SD-03溝跡は調査区北西側から検出し、東西に792m以上(溝跡の両端は調査区外)のびる。上端は東側が幅広く、西側に行くにつれて狭くなる。埋土中から遺物が発見されなかったため、構築された時代は判然としない。しかし、調査区内から土師器杯及びかわらけなど少量ではあるが出土していることから、平安時代~中世の可能性が高いと思われる。また、使用目的は、排水用溝跡・区画の溝跡、あるいは道の側溝跡などの用途が考えられるが、今回の調査では、詳細な性格はわからなかった。

才土地遺跡は平成19年10月に紫波町教育委員会が第1次調査を実施し、遺構は、平安時代の堅穴住居跡や、中世の道の側溝跡と想定される遺構を検出している。遺物は、土師器杯(墨書土器を含む)・甕などが出土している。今回の調査区は、第1次調査を実施した地点から南西約60mの地点で、集落跡の関連施設が存在するのではないかと予測された。しかし、今回の調査区は、第1次調査の調査位置に比べると一段低い場所であったため、溝跡1条と数点の土器のみの成果であった。おそらく、集落は北側微高地に広がりをもつのではないかと推測される。また、第1次調査及び第2次調査でも中世の時代と思われる遺構や遺物が発見されていることから、比瓦館遺跡との関連性も十分留意し、今後の調査で遺跡の様相が明確になることが求められる。

II 善念寺山遺跡 第1次調査

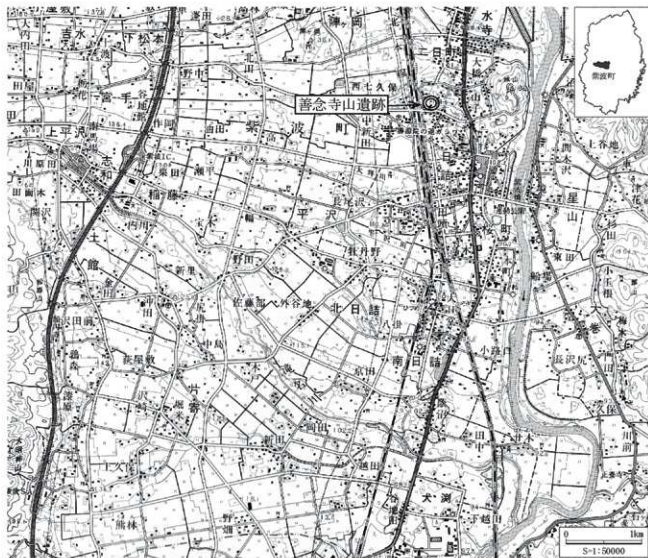
1 遺跡の環境

(1) 位置

本遺跡は、JR東北本線紫波中央駅から東に約0.85km、岩手県紫波郡紫波町二日町字西七久保内に位置する。遺跡範囲は東西約190m、南北約310mと推測される。

(2) 地形と地質

本遺跡の東側約1.4kmには、紫波町の中央を縦断するように北上川が南流する。本遺跡付近には高位段丘(西根段丘)面に相当する石鳥谷段丘が残片的に分布し、さらにその周辺に中位段丘(二枚橋段丘)が見られる。また、高位段丘とその北側に広がる中位段丘の接する地点の北側にある。



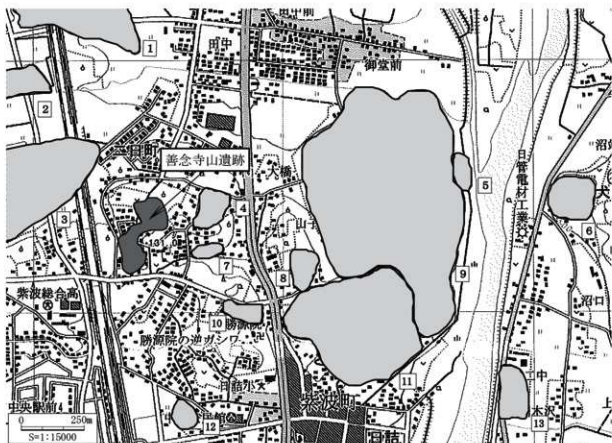
第1図 善念寺山遺跡 位置図

(3) 周辺の遺跡

本遺跡の東側に善念寺山古墳遺跡・善念寺山Ⅱ、南側に日詰下丸森遺跡、西側に杉の上Ⅲ遺跡、北側に杉の上Ⅱ遺跡などが所在する。また、紫波町内には県指定史跡である川原毛瓦窯跡、舟久保洞窟、町指定史跡である陣ヶ岡陣営跡、樋爪館跡、高水寺城跡など貴重な遺跡が存在する。

番号	遺跡名	所在地	種別・時代	遺物
1	杉の上Ⅱ	二日町字栗木田	集落跡・古代	土師器・須恵器
2	川原毛	二日町字川原毛	集落跡・古代	土師器・須恵器
3	杉の上Ⅲ	二日町字七久保・陣ヶ岡	集落跡・古代	土師器・須恵器
4	善念寺山古墳	二日町字北七久保	墳墓・縄文	縄文土器
5	河岸場	日詰河川敷内	渡し場跡	—
6	大吠森館（東館）	大吠森字沼口	城館跡・中世	—
7	善念寺山Ⅱ	二日町字北七久保	散布地・縄文	縄文土器、石鏃、石匙
8	山子	二日町字山子	散布地・縄文	縄文土器、石鏃、石匙
9	高水寺城（郡山城）	二日町字古館	城館跡・中・近世	陶磁器（古瀬戸産、珠洲産、中国産）
10	戸部御所（西御所）	二日町字南七久保	城館跡・中・近世	—
11	吉兵衛館	二日町字向山	城館跡・中・近世	陶磁器（古瀬戸産、中国産）
12	日詰下丸森	日詰字下丸森	集落跡・古代	土師器
13	間木沢	大吠森字間木沢	散布地・古代・近世	土師器、須恵器

表1 周辺の主な遺跡一覧表



第2図 周辺の主な遺跡 位置図

2 調査の概要

(1) 調査に至る経過

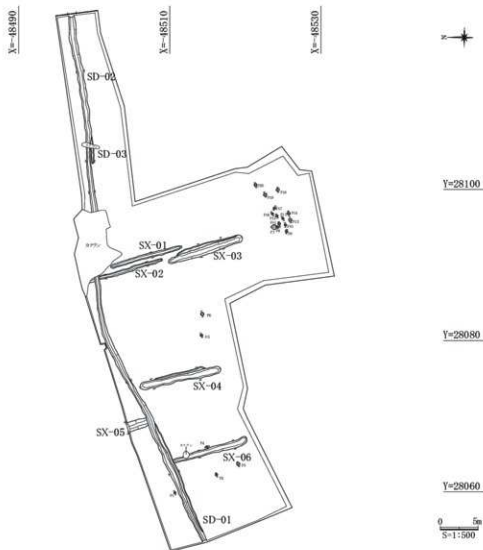
ミネルバ開発株式会社代表取締役 山内季光 氏から平成 30 年 9 月 4 日付けで紫波町二日町西七久保地内の宅地造成に関わる届け出を受け、平成 30 年 9 月 26 日～27 日に試掘調査を実施したところ、遺構及び遺物が発見された。その後、平成 30 年 10 月 5 日付けで岩手県教育委員会から工事着手前の遺跡発掘調査の勧告があった。以上のことから協議を重ね、平成 30 年 4 月 23 日付けでミネルバ開発株式会社代表取締役 山内季光 氏と費用負担契約を締結し、平成 30 年 10 月 10 日から平成 30 年 10 月 30 日にかけて記録保存（緊急発掘調査）に着手した。

(2) 第 1 次調査の概要

位 置 国道 4 号から西に約 500m、岩手県立紫波総合高等学校から北東約 200m に位置し、南北 71.4m・東西 32.8m の範囲を調査した。

検出遺構 SD-01～SD-03 溝跡 3 条、SX-01～SX-06 畝状遺構 6 条、P1～P20 柱穴 20 口

出土遺物 国産陶磁器、その他



第3図 第1次調査 遺構配置図

3 調査の成果

(1) 検出遺構

SD-01 溝跡 (第4図)

位置	調査区北側	平面形	東北東-西南西方向にほぼ直線状にのびる
重複関係	SX-02・SX-05・SX-06を切る	掘込面	削平
検出面	黄褐色シルト層	壁の状態	外傾して立ち上がる
底の状態	ほぼ平坦		
規模	全長38.28m以上、上端0.54m～1.32m、下端0.28m～0.42m、深さ0.12mをはかる。		
埋土	【ベルト①】自然堆積。A層～C層に大別し、A層は2層に細分する。A層はにぶい黄褐色土、B層は明黄褐色土、C層は黄褐色土を主体とする。A1層・A2層はカーボンを含む。 【ベルト②】自然堆積。A層～B層に大別し、A層はにぶい黄褐色土、B層は明黄褐色土を主体とする。A層はカーボンを含む。		

出土遺物 なし

SD-02 溝跡 (第4図)

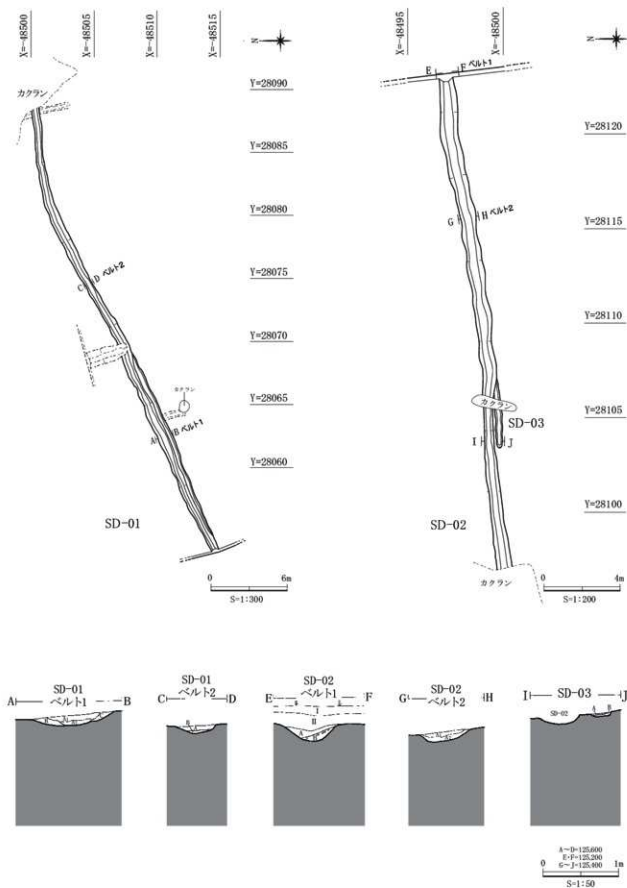
位置	調査区北側	平面形	少し南に傾くが、東西方向にほぼ直線状にのびる
重複関係	SD-03を切る	掘込面	削平
検出面	黄褐色シルト層	壁の状態	外傾して立ち上がる
底の状態	ほぼ平坦		
規模	全長26.53m以上、上端0.52m～0.96m、下端0.26m～0.49m、深さ0.14mをはかる。		
埋土	【ベルト①】自然堆積。A層～B層に大別し、A層はにぶい黄褐色土、B層は明黄褐色土を主体とする。A層はカーボンを含む。 【ベルト②】自然堆積。A層に大別し、A層は2層に細分する。A1層は褐色土を主体とする。A2層はカーボンを含む。		

埋土 なし

SD-03 溝跡 (第4図)

位置	調査区北側	平面形	少し南に傾くが、東西方向に直線状にのびる
重複関係	SD-02に切られる	掘込面	削平
検出面	黄褐色シルト層	壁の状態	緩やかに立ち上がる
底の状態	ほぼ平坦		
規模	全長3.52m以上、上端0.38m～0.42m、下端0.21m～0.27m、深さ0.05mをはかる。		
埋土	自然堆積。A層～B層に大別し、A層はにぶい黄褐色土、B層は明黄褐色土を主体とする。A層はカーボンを含む。		

出土遺物 なし



第4図 SD-01～SD-03溝跡 平面図・断面図 (SD-01-1:300, SD-02・SD-03-1:200・1:50)

SX-01 畝状遺構（第5図）

位置	調査区中央	平面形	北西-南東方向に直線状にのびる
重複関係	SD-01に切られる	掘込面	削平
検出面	黄褐色シルト層	壁の状態	緩やかに立ち上がる
底の状態	浅い皿状		
規模	全長9.78m、上端0.52m～0.68m、下端0.25m～0.30m、深さ0.16mをはかる。		
埋土	自然堆積。A層～B層に大別し、A層は褐色土、B層は明黄褐色土を主体とする。		
出土遺物	なし		

SX-02 畝状遺構（第5図）

位置	調査区中央	平面形	北西-南東方向に直線状にのびる
重複関係	なし	掘込面	削平
検出面	黄褐色シルト層	壁の状態	緩やかに立ち上がる
底の状態	浅い皿状		
規模	全長10.14m、上端0.41m～0.62m、下端0.22m～0.27m、深さ0.24mをはかる。		
埋土	自然堆積。A層～B層に大別し、A層は暗褐色土、B層は明黄褐色土を主体とする。		
出土遺物	なし		

SX-03 畝状遺構（第6図）

位置	調査区中央	平面形	北西-南東方向に直線状にのびる
重複関係	なし	掘込面	削平
検出面	黄褐色シルト層	壁の状態	緩やかに立ち上がる
底の状態	ほぼ平坦		
規模	全長10.29m以上、上端0.75m～1.52m、下端0.37m～0.51m、深さ0.06mをはかる。		
埋土	自然堆積。A層～C層に大別し、A層は暗褐色土、B層は明黄褐色土、C層は黄褐色土を主体とする。A層はカーボンを含む。		
出土遺物	なし		

SX-04 畝状遺構（第6図）

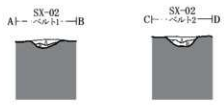
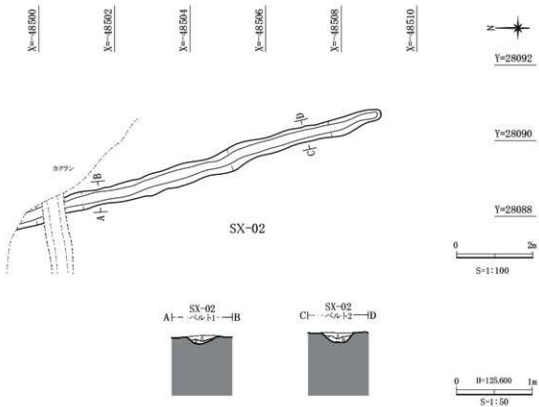
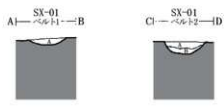
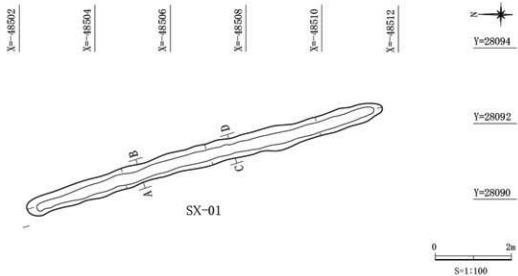
位置	調査区西側	平面形	北西-南東方向に直線状にのびる
重複関係	なし	掘込面	削平
検出面	黄褐色シルト層	壁の状態	緩やかに立ち上がる
底の状態	ほぼ平坦		
規模	全長10.94m、上端0.94m～1.48m、下端0.43m～0.71m、深さ0.19mをはかる。		
埋土	自然堆積。A層～D層に大別し、A層は暗褐色土、B層はにぶい黄褐色土、C層は褐色土、D層は明黄褐色土を主体とする。A層はカーボン・土器を含む。		
出土遺物	瀬戸産播鉢		

SX-05 畝状遺構（第7図）

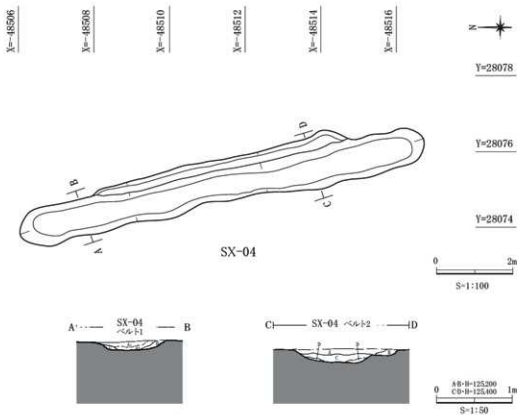
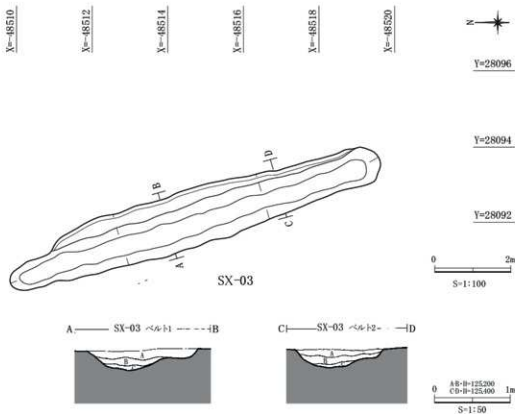
位 置	調査区北側	平面形	北西-南東方向に直線状にのびる
重複関係	SD-01に切られる	掘込面	削平
検出面	黄褐色シルト層	壁の状態	外傾して立ち上がる
底の状態	浅い皿状		
規模	全長2.74m以上、上端0.97m～1.28m、下端0.37m～0.49m、深さ0.26mをはかる。		
埋 土	自然堆積。A層～B層に大別し、A層は褐色土、B層はにぶい黄褐色土を主体とする。A層はカーボンを含む。		
出土遺物	なし		

SX-06 畝状遺構（第7図）

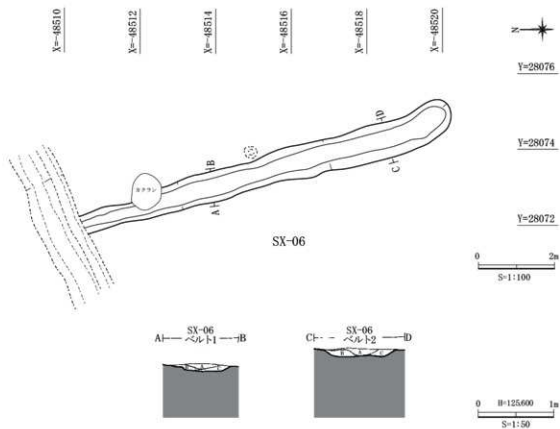
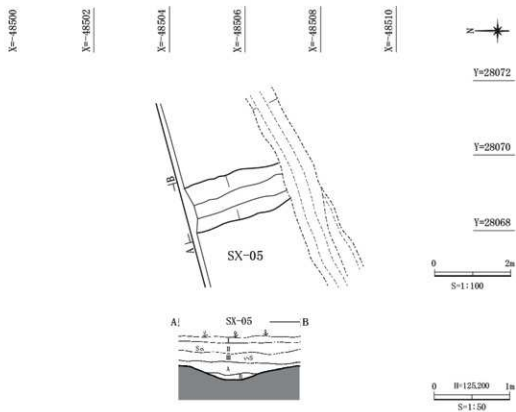
位 置	調査区西側	平面形	北西-南東方向に直線状にのびる
重複関係	SD-01に切られる	掘込面	削平
検出面	黄褐色シルト層	壁の状態	緩やかに立ち上がる
底の状態	浅い皿状		
規模	全長10.25m以上、上端0.48m～0.96m、下端0.23m～0.55m、深さ0.11mをはかる。		
埋 土	自然堆積。A層～C層に大別し、A層は暗褐色土、B層は黒褐色土、C層はにぶい黄褐色土を主体とする。A層はカーボンを含む。		
出土遺物	なし		



第5図 SX-01・SX-02 畝状遺構 平面図・断面図 (1:100 1:50)



第6図 SX-03・SX-04 畝状遺構 平面図・断面図 (1:100 1:50)



第7図 SX-05・SX-06 畝状遺構 平面図・断面図 (1:100 1:50)

溝跡

SD-01 ベルト①

A1	にぶい黄褐色土を主体に、にぶい黄橙色土を粒状～塊状に締まりは硬。カーボンを含む。
A2	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。カーボンを含む。
B	明黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
C	黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SD-01 ベルト②

A	にぶい黄褐色土を主体に、にぶい黄橙色土を粒状～塊状に締まりは硬。カーボンを含む。
B	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SD-02 ベルト①

A	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。カーボンを含む。
B	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SD-02 ベルト②

A1	褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは硬。カーボンを含む。
A2	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは硬。カーボンを含む。

SD-03

A	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。カーボンを含む。
B	明黄褐色土を主体に、にぶい黄橙色土を粒状～塊状に締まりは中。

畝状遺構

SX-01

A	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは硬。カーボンを含む。
B	明黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SX-02

A	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SX-03

A	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。カーボンを含む。
B	明黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。カーボンを含む。
C	黄褐色土・黒色土を主体に、黒色土を粉状～粒状に締まりは中。

SX-04

A	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。土器・カーボンを含む。
B	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D	明黄褐色土を主体に、にぶい黄橙色土を粒状～塊状に締まりは中。

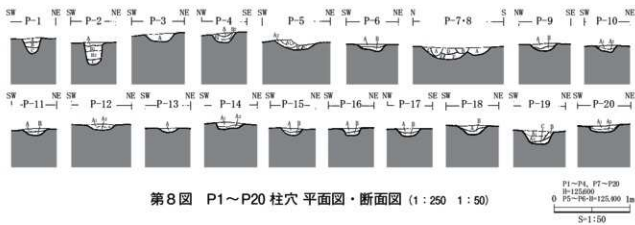
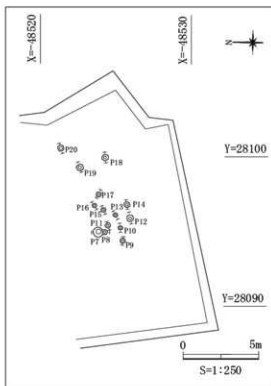
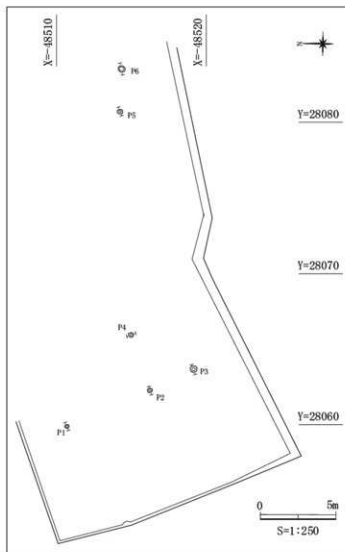
SX-05

A	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。カーボンを含む。
B	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SX-06

A	暗褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。カーボンを含む。
B	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

表2 SD-01～SD-03溝跡・SX-01～SX-06畝状遺構 埋土注記一覧表



番号	深さ(cm)	番号	深さ(cm)	番号	深さ(cm)	番号	深さ(cm)	番号	深さ(cm)
P1	21	P5	12	P9	12	P13	5	P17	11
P2	33	P6	11	P10	9	P14	8	P18	13
P3	8	P7	15	P11	8	P15	7	P19	16
P4	14	P8	8	P12	8	P16	9	P20	9

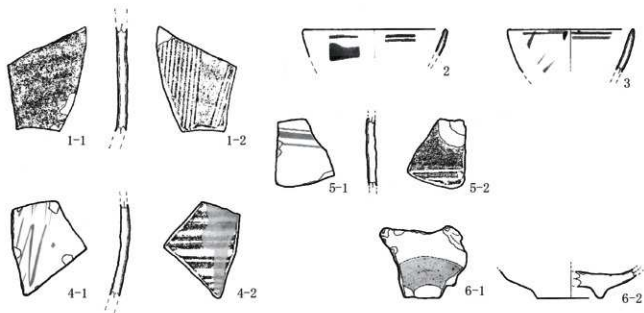
表3 P1～P20 柱穴の深さ一覧表

(2) 出土遺物 (第9図)

今回の調査では、近世(18世紀～19世紀頃)の国産陶磁器が小コンテナで1/4出土した。その内、実測可能な出土遺物6点を図化し掲載した。

1) 国産陶磁器 (第9図)

SD-07 から1点。1は瀬戸産播鉢の体部で、縦5.8cm、横3.9cm、厚さは0.6cmをはかり、一帯当たりの条数は12条である。P9から1点。2は肥前産染付碗の口～体部で、縦1.6cm、横1.7cm、厚さは0.2cmをはかり、口縁内面に二重圈線を描く。検出面から4点。3は肥前産染付碗の口～体部で、縦2.1cm、横2.4cm、厚さは0.4cmをはかり、口縁内面に二重圈線を描く。4は肥前産染付瓶の体部で、縦5.1cm、横4.1cm、厚さは0.4cmをはかり、口縁内面に二重圈線を描く。5は肥前産染付皿の体部で、縦3.3cm、横3.7cm、厚さは0.5cmをはかり。6は肥前産染付火入の体部～底で、縦3.8cm、横3.2cm、厚さは0.4cmをはかり。いずれも近世(18世紀頃)のものと思われる。



第9図 出土遺物 (1:3)

国産陶磁器

番号	遺構名	出土位置	器種名	部位	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	備考
1	SD-07	A層	播鉢	体部	5.8	3.9	0.6	一帯当たりの条数は12条 瀬戸産 18c頃
2	P9	B層	碗	口～体部	1.6	1.7	0.2	口縁内面二重圈線 肥前産 18c頃
3	-	検出面	碗	口～体部	2.1	2.4	0.4	口縁内面二重圈線 肥前産 18c頃
4	-	検出面	瓶	体部	5.1	4.1	0.4	肥前産 18c頃
5	-	検出面	皿	体部	3.3	3.7	0.5	肥前産 18c頃
6	-	検出面	火入	体部～底	3.8	3.2	0.4	肥前産 18c頃

表4 出土遺物一覧表

4 まとめ

善念寺山遺跡第1次調査では、溝跡3条、畝状遺構6条、柱穴20口を検出した。遺物は近世（18世紀～19世紀頃）の国産陶磁器が出土し、大半が肥前産・大堀相馬産であったが、瀬戸産が若干含む。

・溝跡について

SD-01～SD-03 溝跡3条を検出した。SD-02はSD-03を切る。またSD-01の東端とSD-02の西端のそれぞれの延長線上がカクランで壊されているが、おそらく同一の溝跡になると推測される。軸方向は少し南側に湾曲しながら北東～南西方向に、SD-01西端・SD-02東端は調査区外にのびる。構築された時期・使用目的は、判然としない。しかし、周辺から出土した遺物を考慮すると、近世以降の排水用溝跡もしくは灌漑用水用溝跡の可能性が高いと思われる。

・畝状遺構について

SX-01～SX-06 畝状遺構6条を検出した。軸方向はN12°W～N15°Wの範囲に取まり、平行し溝跡に並ぶ。規模は幅0.41m～1.52m、深さ0.06m～0.24mをはかる。おそらく溝跡の形状から耕作に伴う、畝を作る際に構築された跡と推測する。また、SX-04～SX-06も溝跡の軸方向が一致することから、一連の遺構と推定される。SX-02とSX-06の空間部は、自然災害もしくは後世の削平等により、溝跡跡が破壊され検出できなかったと推測される。構築された時期は判然としない。しかし、SX-04から瀬戸産播鉢が1点ではあるが、発見していることから近世以降の遺構と考えられる。

本調査区は、善念寺山遺跡の一番南西側に当たる場所で、初めて発掘調査を実施する。今回、調査面積が約1222㎡の比較的広い範囲を調査する事が出来た。しかし、調査区内の現状はリンゴ畑で有り、地形が東面から西面にかけて斜度が付くほどの削平がされていた。だが、そのような条件のもと、溝跡・畝状遺構の遺構を発見できたことは、良い成果であったと考える。また、今後開発が進むことで、新たな情報やデータを蓄積していくと共に、隣接する遺跡（善念寺山Ⅱ遺跡・善念寺山古墳遺跡・杉の上Ⅲ遺跡）との関係性も視野に入れ、本遺跡の性格や様相を明らかにしていくことが重要である。

<引用・参考文献>

- 1972 紫波町 「紫波町史」第1巻
- 1978 岩手県教育委員会 「東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書-Ⅲ-
- 2010 紫波町教育委員会 「才土地遺跡発掘調査報告書」
- 2013 紫波町教育委員会 「比爪館」第30次発掘調査報告書
- 2015 紫波町教育委員会 「比爪館」第31次・第32次発掘調査報告書
- 2018 紫波町教育委員会 「町内遺跡発掘調査報告書V」

Ⅲ 町内遺跡の埋蔵文化財有無確認調査（平成 30 年度試掘調査）

・文化財保護法第 93 条

才土地遺跡、上好地遺跡①、上好地遺跡②、北日詰東ノ坊Ⅳ遺跡隣接地、北日詰東ノ坊Ⅳ遺跡、南日詰小路Ⅱ遺跡、南日詰滝名川Ⅴ遺跡、善念寺山遺跡、下敷遺跡隣接地、日詰西遺跡隣接地①、本町川原遺跡、日詰西遺跡隣接地②、の 10 遺跡・12 箇所。

・文化財保護法第 94 条

後在所遺跡、南日詰大銀Ⅱ遺跡、西長岡長谷田遺跡の 3 遺跡・3 箇所。



第 1 図 試掘調査 遺跡位置図

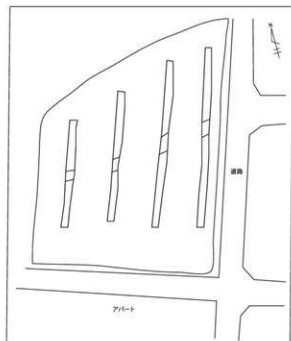
文化財保護法第93条

1) 才土地遺跡

遺跡コード LE67-2088
所在地 桜町字才土地地内
調査原因 宅地造成
調査年月日 H30年3月22日
調査面積 186㎡
検出遺構 溝跡
出土遺物 土師器



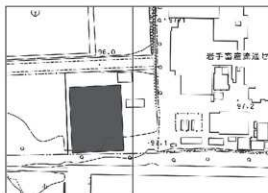
試掘調査位置図



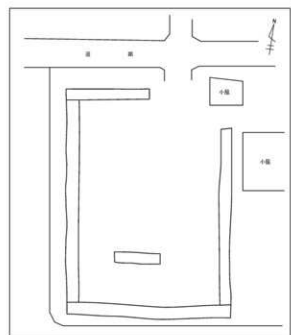
トレンチ平面図 (1:200)

2) 上好地遺跡①

遺跡コード LE87-0068
所在地 石鳥谷町好地第12地割内
調査原因 配送センター建築工事
調査年月日 H30年3月27日～H30年3月28日
調査面積 114㎡
検出遺構 なし
出土遺物 なし



試掘調査位置図



トレンチ平面図 (1:500)

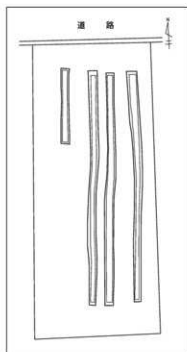
文化財保護法第93条 試掘調査位置図・トレンチ平面図①

3) 上好地遺跡②

遺跡コード LE87-0068
 所在地 石鳥谷町好地第12地割内
 調査原因 駐車場増設工事
 調査年月日 H30年4月16日
 調査面積 171㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし



試掘調査位置図



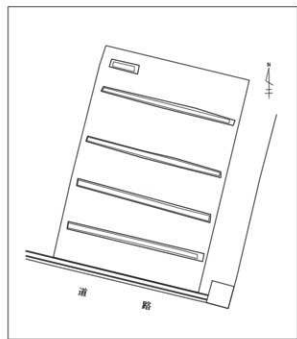
トレンチ平面図 (1:700)

4) 北日詰東ノ坊Ⅳ遺跡 隣接地

遺跡コード
 所在地 北日詰字東ノ坊地内
 調査原因 宅地造成
 調査年月日 H30年5月16日
 調査面積 77㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし



試掘調査位置図



トレンチ平面図 (1:500)

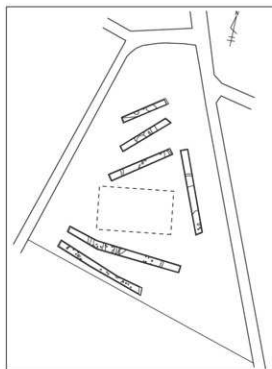
文化財保護法第93条 試掘調査位置図・トレンチ平面図②

5) 南日詰小路口Ⅱ遺跡

遺跡コード LE77-1131
 所在地 南日詰字小路口地内
 調査原因 土地売買
 調査年月日 H30年6月5日～H30年6月6日
 調査面積 302㎡
 検出遺構 竪穴状遺構、溝跡、土坑跡、柱穴
 出土遺物 土師器、かわらけ



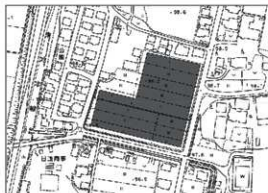
試掘調査位置図



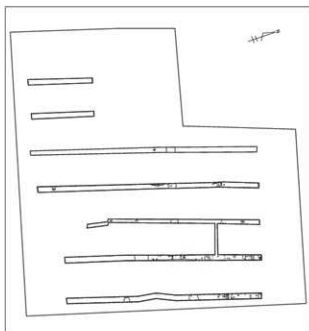
トレンチ平面図 (1:1200)

6) 北日詰東ノ坊Ⅳ遺跡

遺跡コード LE77-0074
 所在地 北日詰字東ノ坊地内
 調査原因 宅地造成
 調査年月日 H30年7月27日～H30年7月30日
 調査面積 975㎡
 検出遺構 竪穴状遺構、溝跡、土坑跡、柱穴
 出土遺物 土師器、須恵器、国産陶磁器



試掘調査位置図



トレンチ平面図 (1:1600)

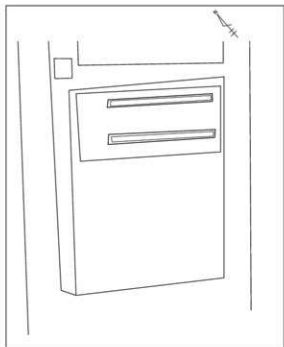
文化財保護法第93条 試掘調査位置図・トレンチ平面図③

7) 南日詰滝名川V遺跡

遺跡コード LE77-1131
 所在地 南日詰字滝名川、字甘木地内
 調査原因 個人住宅建築工事
 調査年月日 H30年8月24日
 調査面積 28㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし



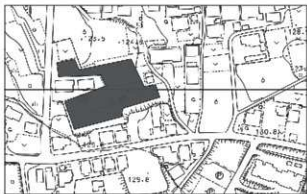
試掘調査位置図



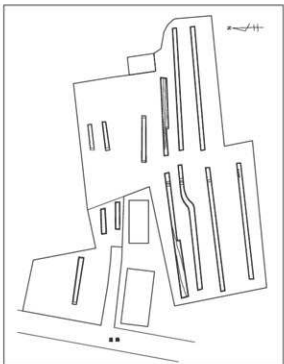
トレンチ平面図 (1:500)

8) 善念寺山遺跡

遺跡コード LE67-0064
 所在地 二日町字西七久保地内
 調査原因 宅地造成
 調査年月日 H30年9月26日
 調査面積 361㎡
 検出遺構 溝跡、柱穴
 出土遺物 土師器、国産陶磁器、古銭



試掘調査位置図



トレンチ平面図 (1:1200)

文化財保護法第93条 試掘調査位置図・トレンチ平面図④

9) 北日詰下敷遺跡 隣接地

遺跡コード

所在地 北日詰字下敷地内

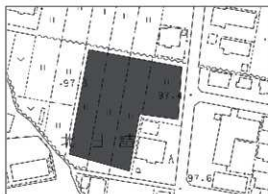
調査原因 宅地造成

調査年月日 H30年10月1日

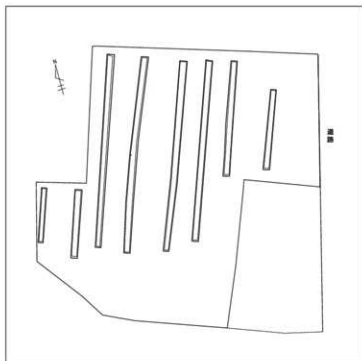
調査面積 398㎡

検出遺構 なし

出土遺物 国産陶磁器



試掘調査位置図



トレンチ平面図 (1:1000)

10) 日詰西遺跡 隣接地①

遺跡コード

所在地 日詰西4丁目地内

調査原因 個人住宅建築工事

調査年月日 H30年11月15日

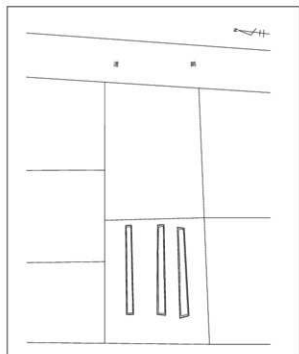
調査面積 36㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし



試掘調査位置図

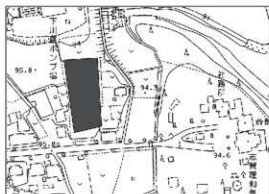


トレンチ平面図 (1:500)

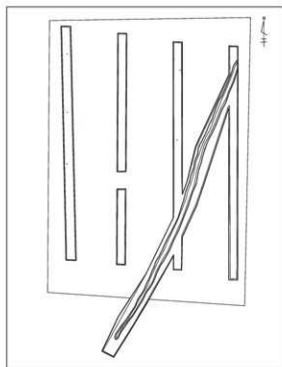
文化財保護法第93条 試掘調査位置図・トレンチ平面図⑤

11) 本町川原遺跡

遺跡コード LE67-2144
 所在地 桜町字本町川原地内
 調査原因 神社移転建築工事
 調査年月日 H30年12月3日～H30年12月5日
 調査面積 310㎡
 検出遺構 溝跡
 出土遺物 土師器、須恵器、縄文土器、石器



試掘調査位置図



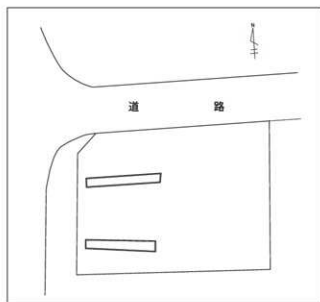
トレンチ平面図 (1:600)

12) 日詰西遺跡 隣接地②

遺跡コード
 所在地 日詰西4丁目地内
 調査原因 グループホーム建築工事
 調査年月日 H30年12月11日
 調査面積 4㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし



試掘調査位置図



トレンチ平面図 (1:200)

文化財保護法第93条 試掘調査位置図・トレンチ平面図⑥

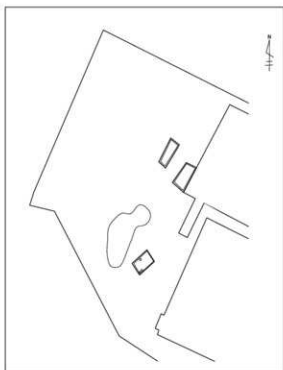
文化財保護法第94条

1) 南日詰大銀Ⅱ遺跡

遺跡コード LE77-1104
所在地 南日詰字小路口地内
調査原因 解体工事
調査年月日 H30年7月12日
調査面積 22㎡
検出遺構 柱穴
出土遺物 かわらけ



試掘調査位置図



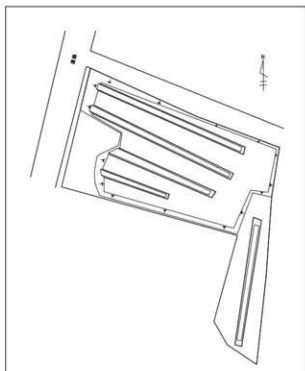
トレンチ平面図 (1:600)

2) 後在所遺跡

遺跡コード LE85-0304
所在地 片寄字後在所地内
調査原因 浄水場築造工事
調査年月日 H30年9月19日
調査面積 159㎡
検出遺構 なし
出土遺物 なし



試掘調査位置図



トレンチ平面図 (1:800)

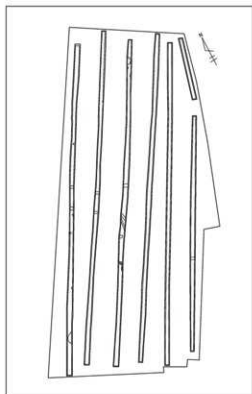
文化財保護法第94条 試掘調査位置図・トレンチ平面図①

3) 西長岡長谷田遺跡

遺跡コード LE57-1360
所在地 西長岡字長谷田白山地内
調査原因 水田暗渠排水整備
調査年月日 H30年11月27日～H30年11月29日
調査面積 1536㎡
検出遺構 溝跡、土坑跡、柱穴
出土遺物 土師器、須恵器、国産陶磁器、古銭、
中国産磁器



試掘調査位置図



トレンチ平面図 (1:1500)

写 真 图 版



調査区全景（東から）



SD-03溝跡 完掘（北から）



SD-03 断面



作業風景



調査区全景 (空撮)



調査区全景 南から (空撮)

第3図版 善念寺山遺跡 第1次調査 調査区全景 (空撮)



SD-01 完掘 (西から)



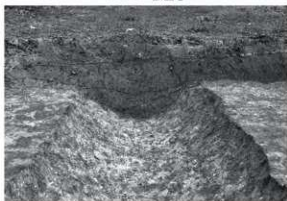
SD-01 断面①



SD-01 断面②



SD-02 完掘 (東から)



SD-02 断面①



SD-02 断面②



SD-03 完掘 (東から)



SD-03 断面



SX-01～SX-03 完掘 (南から)



SX-01 断面



SX-02 断面



SX-03 断面



SX-04 完掘 (南から)



SX-04 断面



SX-05 完掘 (南から)



SX-05 断面

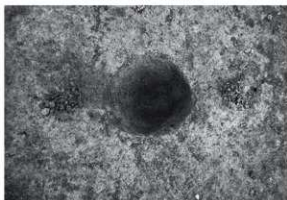
第5図版 善念寺山遺跡 第1次調査 SX-01～SX-05欵状遺構 完掘・断面



SX-06 完掘 (南から)



SX-06 断面



P1 完掘



P1 断面



P2 完掘



P2 断面



出土遺物状況① (検出面から)



出土遺物状況② (検出面から)



1



2



3

才土地遺跡 第2次調査



1-1



1-2



2-1



2-2



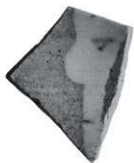
3-1



3-2



4-1



4-2



5-1



5-2



6-1



6-2

善念寺山遺跡 第1次調査



1) 才土地遺跡



2) 上好地遺跡①



3) 上好地遺跡②



4) 北日詰東ノ坊Ⅳ遺跡 隣接地



5) 南日詰小路口Ⅱ遺跡



6) 北日詰東ノ坊Ⅳ遺跡



7) 南日詰滝名川Ⅳ遺跡



8) 善念寺山遺跡



9) 北日詰下敷遺跡 隣接地



10) 日詰西遺跡 隣接地①



11) 本町川原遺跡



12) 日詰西遺跡 隣接地②



13) 北日詰東ノ坊Ⅳ遺跡 検出遺構



14) 南日詰小路口Ⅱ遺跡 検出遺構



15) 善念寺山遺跡 検出遺構



16) 本町川原遺跡 検出遺構



1) 南日誌大銀Ⅱ遺跡



2) 後在所遺跡



3) 西長岡長谷田遺跡



西長岡長谷田遺跡 検出遺構①



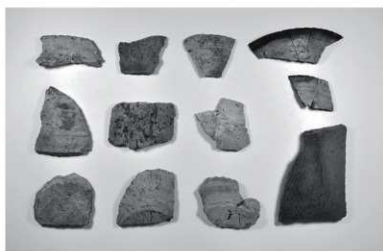
西長岡長谷田遺跡 検出遺構②



西長岡長谷田遺跡 出土遺物状況



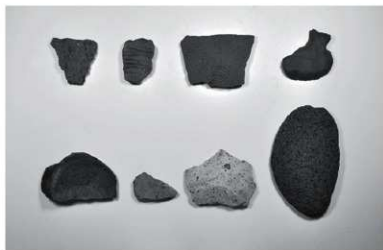
南日誌小路口Ⅱ遺跡



北日誌東ノ坊Ⅳ遺跡



善念寺遺跡



本町川原遺跡



西長岡長谷田遺跡

抄 録

ふりがな	ちょうないいせきはつちょうさほうこくしよろく							
書名	町内遺跡発掘調査報告書VI							
副書名								
巻次								
シリーズ名	岩手県紫波町文化財報告書2020							
シリーズ番号								
編集者名	鈴木賢治							
編集機関	紫波町教育委員会							
所在地	岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目3番地1							
発刊年月日	令和2年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
才土地 遺跡 第2次調査	岩手県紫波郡 紫波町桜町字 才土地地内		LE67-2088	39° 33' 45"	141° 9' 36"	H30.04.23 ～ H30.05.02	166.5㎡	宅地造成に伴う 緊急発掘調査。
善念寺山 遺跡 第1次調査	岩手県紫波郡 紫波町二日町字 西七久保地内		LE67-0064	39° 32' 36"	141° 9' 55"	H30.10.10 ～ H30.10.30	1222.4㎡	宅地造成に伴う 緊急発掘調査。
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
才土地 遺跡 第2次調査	集落跡	古代	溝跡	縄文土器 土師器 かわらけ 古銭				
善念寺山 遺跡 第1次調査	散布地	縄文	溝跡 畝状遺構 柱穴	大槌相馬産 碗 肥前産染付 皿 ・瓶・碗・火入 瀬戸産 搦鉢				

町内遺跡発掘調査報告書 VI

2020年3月

- 編 集 紫波町教育委員会
〒028-3392 岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目3番地1
TEL 019-672-2111(代) FAX 019-672-1553
- 発 行 ミネルバ開発株式会社
紫波町教育委員会
- 印 刷 社陵高速印刷株式会社
〒020-0811 岩手県盛岡市川目町23番2号 盛岡中央工業団地
TEL 019-651-2110 FAX 019-654-1084
-